(別紙)

成果の説明書

(氏名)　阿久津　由佳	(学部)　経済学部

1　重要事項

(1)　教育

2013 年度に最も力を注いだのは、英語授業の改善に向けての取り組みである。まず、社会で求められている英語力について情報収集を行い、それをどのようにして本学の学生に身に着けさせるべきか、そのために必要な英語の学習環境やカリキュラムとは何かについて分析・検討した。次に、その成果を授業の内外で試行、実践した。特に、学生がより自発的に学ぶための授業形態について研究し、本学学生が魅力を感じ、かつ積極的に継続して英語学習に取り組める授業の内容や構成を求めて聞き取りや試行等を行った。

具体的には、

①社会で必要とされている英語力に関するデータ、文献等の収集
②TOEIC・TOEFL スコア等に関するデータの収集
③TOEIC 問題の傾向の分析
　＊特に頻繁に使用される語彙・表現の収集
　＊リスニング問題のトピックの傾向および会話表現の分析
　＊リーディング問題のトピックの傾向、文法問題の傾向に関する分析　等
④「学生の求める英語授業」とは何かについて学生からの聞き取りサンプル調査
⑤学生が能動的に学習できる英語授業の形態についての実験的取り組み
⑥PC の効果的利用により学生個々人の習熟度、ニーズ等に合わせやすい授業形態についての実験的取り組み

などがあげられる。

これらの取り組みおよび分析の成果は、まず必修英語科目(Current English 3/4)および総合科目(Business Communication Skills)において実践、利用し、効果をあげていると考える。授業評価でもいずれの科目でも高い評価となっているが、個別に行った聞き取りにも、TOEIC への対応等、社会と学生のニーズに対応した授業内容と、学生の積極的取り組みを促す授業方法について、特に評価が高かった。また、授業外での積極的学習を促すため、授業時間外に希望者を対象に個別の英語学習相談を実施し、各自のレベルや適性、目標に合わせた学習計画作成のアドバイス等を行った。

(2)　研究

前年度に引き続き英語の語用論的要素をどのように学校英語教育に取り入れるかについての研究を進めている。2013 年度は、中学・高校での語用論教育について行った調査(聞き取り、アンケート等)の資料の整理とデータ化を進めるとともに、

論文執筆のための分析を行った。
また、日本語と英語の語用論表現の違いを意識して学習することによる表現定着の効果についても研究を開始している。2013 年度は実験実施のためのパイロットスタディ(アンケート等)を行い、現在も項目の作成、修正、調整などを行っている。
また、ISIS2013 に参加し、最新の教育の動向についての知識を深めた。

2　その他の事項

・英語カリキュラムの計画策定及び実行に関して、英語小部会のメンバーとして会合に参加し、カリキュラムの検討を行った。

・国際交流委員会委員として、アメリカおよびオーストラリアへの学生派遣担当となり、留学生説明会への参加および説明を行った。また学生への個別留学相談への対応などを行ってきた。

考え、のニーズに適合しかつ魅力的な英語の授業、学習
環境とは何かを明らかにし、それをできる限り実行し、また将来的に現実化できるように努力してきた。